

14年閉館 アマゾン自然館・民族館(鶴岡)の資料2万点

展示再開へ 基金を設立

2014年3月に閉館した鶴岡市のアマゾン自然館・民族館で展示、保存していた約2万点の資料を再活用しようと、「アマゾンコレクション保護・基金」が立ち上がった。閉館後、資料は市有施設に保存されていたが、全国から広く善意を募り、新たな展示・保存場所を探し、再公開を目指す。所有者でアマゾン研究家の山口吉彦さん(76)考子(なすこ)さん(72)夫妻は「子どもたちや研究者に継承するため、最大限価値を発揮できる方法を探りたい」と話す。

アマゾン自然館は旧朝日村の月山あさひ博物館に1991年、同民族館は鶴岡市の出羽庄内国際村(国際村)に1994年、それぞれ開館した。展示品は、主に1970年代に収集したもので、動物の剥製や昆虫の標本、衣装や装飾品など多岐にわたる。現在はワシントン条約やブラジルの国内法で持ち出しが規制されており、収集が困難なものばかりだという。

ピーク時、自然館は年間約16万人、民族館は同約6

万人を数えるほど人気を集

めたが、閉館間近には10分

の1に減少。両施設を所有

する鶴岡市の行財政改革の

一環で、閉館が決まった。

閉館後、山口さん夫婦と

市は、資料の移転先を探そ

うと、国内の大学や博物館

に働き掛けた。しかし「自

然と民俗の両面を知ること

で理解が深まる。一部の分

野ごとに散逸してしまえ

ば、本来の価値が失われる

との山口さんの意向もあっ

て、一括での引き受け手は

なかなか見つからず、交渉

「次世代に継承したい」

は難航した。一方、国際村に無償で資料を保存できるとする市との申し合わせ期限である2017年3月末が迫っていた。

考子さんの知人で、米沢市に住む会社役員松田亮子さん(55)が昨年、その状況を知り、「夫妻の貴重な経験を伝え、展示を通して子どもたちの心を豊かにしたい」との思いで、展示再開に向けた活動に着手。公益財団法人公益推進協会の制

度を利用して、基金を立ち上げた。

基金を活用し、山口さん

夫婦は初めに気温や湿度が

管理できる保管庫を見つけ

たい考え。その上で、新た

に展示や保存ができる博物

館の建設を視野に入ってい

る。資料を載せて全国を巡

回るキャラバンバスの運

行も予定している。基金概

要はアマゾン研究所Futaba

://amazon-yv-collection.com/



現在では収集が困難になったオセロットとシロウジウ
トキの剥製を持ち「次世代のために活用したい」と話す
山口さん夫妻

鶴岡市